

2017年11月10日

## 植物由来再生医療用増殖因子製造の包括契約を締結

株式会社 UniBio（本社：新潟市西蒲区新飯田潟 88 番地、事業内容：植物バイオ技術に関する研究開発、関連商品の製造・販売等）は、この程米国 Kentucky BioProcessing, Inc.（本社：米国ケンタッキー州オーエンズボロ、エアパークライズ 3700、以下「KBP」）と包括的技術ライセンスオプション契約を締結し、KBP が開発して保有する、植物の一過性発現技術である GENEWARE®技術（以下「KBP 技術」）を用いて再生医療分野、ティッシュエンジニアリング分野、及び化粧品を含む非医療分野の三分野（以下「許諾対象三分野」という。）で使用されるヒト細胞増殖因子（hEGF）を除く全ての細胞増殖因子を全世界で独占的に開発・製造・販売する包括的使用許諾権のオプション権（以下「包括的独占使用許諾権オプション」）を取得しました。なお、hEGF についての包括的独占使用許諾権は取得済みです。

従来、許諾対象三分野を含む様々な分野に使われている細胞増殖因子は、大腸菌、哺乳動物細胞等アニマル由来のものから製造されており、細胞毒、ウイルス、細菌の混入等の安全性の問題が大きく、これをクリアするために製造コストが非常に高くなるという問題をかかえております。その上我が国の場合は、殆どの細胞増殖因子を輸入に依存しているため、納期遅延及び輸入コスト追加負担という問題が加っております。そこで現在の市場では、動物細胞、大腸菌等動物由来技術等を使わず植物を使用して細胞増殖因子を安価で安全に製造する、いわゆるアニマルフリー技術による製品の開発・製造・販売へと急速にパラダイムシフトが起こりつつあります。

当社は、創業以来 6 年間一貫してアニマルフリー、即ち植物由来の細胞増殖因子の開発から製造・販売事業までを実施しているアニマルフリー技術での細胞増殖因子の開発製造・販売の日本の草分け企業です。当社の技術は従来のタンパク質生産技術と比べて、①安全性の度合いが極めて高い、②生理活性のあるタンパク質の生産が容易である、③生産規模調整が容易であるという大きな利点を有しています。

当社は、KBP 技術を使い、その第一号として hEGF の開発・製造・販売に 5 年の歳月をかけてこれを成功させ、また植物由来の細胞増殖因子開発・製造について幾多のノウハウ・技術を蓄積してまいりました。当社は、この蓄積したノウハウ・技術と今回 KBP 社より取得した包括的独占使用許諾権オプションを基に、次の施策としては、再生医療分野に焦点を当てこの分野の細胞増殖因子を開発・製造・販売することを当社の最優先目標としています。

当社は、この程 KBP 社より全世界をテリトリーとして取得した許諾対象三分野でのサブライセンス権付包括的独占使用許諾権オプションに基づいてのアニマルフリー技術での世界展開を①自社による新規製品開発・製造・販売事業、②企業との共同開発事業、及び③各種製品の製造技術のライセンス供与の三つの手法で鋭意推進してまいります。

以上